令和５年度　授業改善推進プラン

担当教科（　社会　）　　学年（　１学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

第１回定期考査（6 月実施）において達成率 50%未満の生徒が 17 名（44.7%）、達成率 50%～89%の生徒が 17 名（44.7%）、達成率 90%以上の生徒が 4 名（10.5%）である。7 月実施の授業アンケートによれば、「わかった」「できた」と感じる機会がありわかりやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒は 33 名（97.0%）である。よって、課題分析を以下の通りとする。

・定期考査等の結果からわかる、基礎的な学力の定着度（達成率）を向上させる。

・積極的に授業に取り組むことができ、「わかる、できる」実感を持つことができる授業を今後も継続して行う。

授業等の課題分析

多くの生徒が地理的分野・歴史的分野の内容のいずれにも興味をもち授業に参加している。

緯度と経度を用いて日本列島の位置関係を描く課題では、資料を見ながら書き写す作業で、緯度・経度が全く合っていない生徒が多く見られた。列島の形に傾注するあまり、課題の本筋がとらえられていない生徒が複数いることがわかった。ワーク課題の提出に際しては、自己採点をして誤答や不明点を正した上で提出することとしたが、答え合わせを完成させて提出した生徒がわずかであった。

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業改善のための具体的な方策

・基礎的な学力の定着度（達成率）を向上させるため、問題演習や答え合わせも大切にしながら正しい知識の定着に取り組ませる。

・画像や映像などの資料を活用したり、デジタル教科書を活用したりしながら、さまざまな資料分析を行い、課題の本筋を捉えてわかったことを説明・表現する練習を積み重ねる。

・授業の振り返りを充実させ、毎時間の授業で何がわかったか思考する時間を設定する。

令和５年度　授業改善推進プラン

担当教科（　　社会　　）　　学年（　２学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

１学期授業アンケートの結果について、同学年の１年次（昨年度）と２年次（今年度）を比較すると、「授業に積極的に取り組んでいる」という問いに否定的な回答をする生徒は３名から７名に増加した。定期考査結果については全体として１年次と大きな変動は見られなかった。６月に実施した実力テストでは校内平均が都内平均を上回り、73%（29 名）の生徒が達成率 50%以上であった。出題範囲が広範の実力テストで都内平均以上を取る力がついている一方、今後の学習で伸び悩みが懸念される。

授業等の課題分析

１年次には資料からわかることを読み取り表現する課題において、表現の仕方がわからず記述や発表ができない生徒が多く見られたが、課題に対する自力解決・集団解決・共有・振り返りのサイクルを継続してきた結果、思考力や表現力が向上し、自信をもって課題に取り組む生徒が増加した。

授業内の課題を手際よく進めることができる姿が増えたが、向上心をもってより高い完成度を目指したり磨きをかけたりする様子は少ない。

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業改善のための具体的な方策

生徒が授業に積極的に取り組むことができるよう、デジタル教科書や映像資料等を活用し、いろいろな視点から興味や関心を高めることができるようにする。また、課題に対する自力解決・集団解決・共有・振り返りのサイクルを引き続き実施し、知識とともに思考力や表現力の向上を目指す。わかる授業を展開し、生徒が主体的に学習に取り組む態度を高める。

授業における課題への探究や追究を強化することができれば、実力テストや定期考査においてさらなる得点力向上や評価・評定の向上にもつながる。集団解決や共有の時間を十分に確保し、互いに説明や質問をすることで内容の理解を深めたり、より良い表現方法を体得したりする。

令和５年度　授業改善推進プラン

担当教科（　社会　）　　学年（　３学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

６月実施の定期考査において、38%（10 名）の生徒は 80%以上の達成率であったが、同時期の領域診断テストでは、83%（20 名）の生徒が 50%未満の達成率であった。1～2 年次の内容を含めた基本的な学習内容の定着を図る必要がある。７月実施の授業アンケートでは、89%（16 名）の生徒が「授業に積極的に取り組んでいる」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した（2 年次 73%、14 名）が、同アンケートにおいて 11%（2 名）の生徒が「授業はわかった・できたと感じる機会があり、分かりやすい」という問いに否定的（「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」）回答をした（2 年次 21%、4 名）。いずれの項目も 2 年次より改善している。

授業等の課題分析

４月以降の授業内小テストでは事前対策をして臨む生徒とそうではない生徒の二極化が見られる。

習得した知識及び技能を活用して社会的事象について考察する学習（「戦後の民主化について」、「大正から昭和時代の文化について」まとめる等）においては、意欲的に活動に取り組み、活発な意見交換や発表が見られる一方で、グループ活動になると他者に頼ってしまう生徒も見られた。また、課題に合った答え方をしていなかったり、検討する内容にずれ（課題の捉え違い）が生じていたりするなどの様子も複数の生徒に見られた。

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業改善のための具体的な方策

１～２年次に比較すると３学年全体としての生徒の学習に向かう姿勢や態度は向上している。生徒の積極的な姿勢を維持しつつ、内容理解や達成感（わかる授業・できる自信）につながるような手立てが必要であるため、以下の方策を実践する。

- 生徒の学習活動の土台となる基礎的な知識や理解の向上を図るため、授業内の振り返りや復習を充実させる。（小テスト実施を含め、復習の機会を増やす）
- 自分の考えをまとめ、論述する機会を増やす。（話すこと・書くこと）
- 得点力の強化を目指し、問題演習を行う機会を確保する。